学校番号	116

令和２年度　国語科

教科	国語	科目	古典Ｂ	単位数	３単位	年次	２年次
使用教科書	新　探求古典Ｂ古文編・漢文編（桐原書店）						
副教材等	「体系古典文法　八訂版」（数研出版）「体系漢文　改訂版」（数研出版） 「Look＠古文単語 337」（京都書房）「新　国語総合ガイド」（京都書房） 「新版　新訂総合国語便覧　準拠ノート」（第一学習社）「助動詞・助詞・敬語・識別　入試対策強化　解釈力の超トレーニング」（尚文出版）「古典文法　要点整理ノート」（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

２年の古典では、江戸時代までに書かれた文章を扱い、「読むこと」を中心に学びます。どのような構造でどのような内容が書かれているのかを理解して読むことが大切です。
読むためには、単語の知識、文法の知識、また作品の背景などを理解する必要があります。
古典文法や古典単語の小テストでは毎回満点を取りましょう。

２　学習の到達目標

・古典についての理解や関心を深める。
・文語のきまり、訓読のきまりなどを理解する。
・古典としての古文と漢文を読む能力を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	d:読む能力	ｅ：知識・理解
観点の趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、その向上を図ろうとする。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについて理解し、知識を身に付けている。
主たる評価方法	行動の観察 記述内容の確認 記述内容の分析	発言内容 記述内容の確認 記述内容の分析 定期考査	発言内容 小テスト 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
一学期中間	随筆	「ある者、子を法師になして」(徒然草) 「ゆく川の流れ」(方丈記) 「うつくしきもの」 「中納言参り給ひて」(枕草子)				○		d：助動詞や助詞を手がかりに語り手の視点を理解して読むことができている。	d:定期考査
一学期期末	物語・日記・和歌	「初冠」(伊勢物語) 「門出」「物語」(更級日記) 和歌	○			○		a：物語の中で和歌が果たす役割について理解を深めている。 d：物語を踏まえて和歌を解釈することができている。	a:行動の観察 d:定期考査
二学期前半	歴史・物語	「花山院の出家」(大鏡) 「光源氏の誕生」 「若紫との出会い」(源氏物語)	○				○	a:歴史物語の構成を理解し、関心を深めている。 e：源氏物語における中国文学とのかかわり、源氏物語が後世の文学に与えた影響について理解を深めている。	a：行動の観察、記述の確認 e:小テスト、定期考査
二学期期末	故事・史伝	「画竜点睛」「漱石枕流」 「桃花源記」(陶潜) 「鴻門之会」(司馬遷)	○				○	a：項王側と沛公側の登場人物の心理と役割について記述できている。 e：「否定」「使役」の漢文句形を理解している。	a：行動の観察、記述の確認 e:定期考査
三学期	思想・軍記物語	「論語」「孟子」「荀子」 「先帝入水」(平家物語)				○	○	d：思想の違いを理解して読むことができている。 e：軍記物語の特徴について理解している。	d：記述の確認、定期考査 e:行動の観察、定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:話す・聞く能力　c:書く能力　d:読む能力　e：知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。